



小学校における英語教育と高崎市の取組 ～高い英語力と国際感覚を持った児童生徒の育成～

高崎市教育委員会 教育長 飯野 眞幸

高崎市について

本市は、東京から上越および北陸新幹線で45分の位置にあり、交通の要衝として経済活動をはじめ文化・スポーツも活発で、群馬県では最も活気のある人口37万5千人の中核市です。市立の幼稚園が8園、小学校が58校、中学校が25校、特別支援学校が1校、高等学校が1校あり、約3万2千人の児童生徒が在籍しています。

これまでの本市の小学校英語の取組

市街地にある城南小学校を、いずれの地域からも通学可能な学校（特認校）に指定し、文部科学省の教育課程特例校として、1年から6年まで外国語活動を通して「聞く・話す」を中心としたコミュニケーション活動を重視した取組を推進してきました。この指定校の取組は本市小学校の英語活動の拠点としての役割を10数年にわたり担ってきており、この間、JETプログラムのALTの皆さんにも大変お世話になりました。この取組は文部科学省からも高い評価をいただきました。

また、市教委では、平成25年から小学生を対象に夏休みを利用して子どもたちがALTと触れ合うイングリッシュフェスタという事業を開始したところ、毎年大盛況となっています。この背景には、ALTの献身的な協力があります。このイングリッシュフェスタでは、ALTが1グループ数人の小学生と自己紹介を始めとした会話をしたり、ALTが自国の文化を紹介するブースを小学生が回ってALTが用意したゲームをしたりして、ALTとの会話や活動を楽しみます。このような内容が好評で、毎年200名近い小学生が参加しています。

さらに、中学校との連携を大事にしたいという思いから、小学生同様夏休み中にALTの協力による中学生を対象とした事業も行っています。平成24年から始まったイングリッシュサマースクールでは、中学生の数人の班に1～2名のALTを配置し、聞く・話す活動や興味

あるトピックについて英文で書いて英語でプレゼンする活動を5日間にわたって行っています。このサマースクールには100名を超える生徒が希望して参加をしています。また、平成27年からはイングリッシュサマースクールと銘打ち、30名の中学生が6名のALTと名勝地榛名湖畔の施設で英語漬けの2泊3日を過ごす取組も始めました。このほか、本市では毎年、50名の中学生を11日間、海外でホームステイさせながら交流を図る「国際交流派遣団」事業を行っています。この事前研修にも多くのALTが関わり、派遣される中学生に対し現地の生活習慣や文化の学習、そして英語による日常会話のスキルアップにも尽力いただいています。

ALT 全校配置計画

本市は富岡賢治市長を先頭に国際的視点に立つさまざまな施策を展開しているところですが、その市長からALTを全小学校・中学校に配置したらどうかという提案をいただきました。私は、かつて群馬県教育委員会事務局に在職していた折り、JETプログラムによるALT配置に深く関わり、ALTの学校教育における役割の重要性、特に初めて英語に触れる子どもたちにとってネイティブの存在は非常に大きいと実感していたこともあり、市長の提案は大変ありがたいものでした。そして、



イギリス出身のALTがイギリスブースで自国の文化の説明をしています。

2016年イングリッシュサマースクールでの1コマ



2016 イングリッシュサマーキャンプでの1コマ

すぐに自治体国際化協会に出向き、JETプログラムのALTの派遣をお願いしたところ、早速丁寧に対応していただき、JETプログラムから今年度21名を増員し、来年度も21名増員していただけることになりました。これにより来年度本市ではALTの小中83校への全校配置が完成します。中学校ばかりでなく、小学校にも毎日ALTが常駐することになり、児童はALTと毎日触れ合えるようになります。初めはなかなか難しいかなと思いつつお願いしましたが、高崎市の児童生徒のために素晴らしい環境を整えていただきました自治体国際化協会に市長をはじめ多くの教育関係者が感謝しています。

これからの本市の英語教育

7月末から8月にかけて、31名の新規JETプログラムによるALTが本市に着任し、現在ALTが合計62名を数えることとなりました。31名の新規ALTを含めた36名のJETプログラムによるALTの出身国の内訳は、アメリカ合衆国が最も多く17名、次いでニュージーランドとカナダが各6名、イギリスは5名、フィリピンとオーストラリアが各1名となっています。JETのALTが来日した際は、民間のボランティアの皆さんにもご協力いただき、事務手続きや住居への入居などがスムーズに進められ、9月1日からの2学期より各学校でがんばっていただいています。

ALT全校配置を踏まえた英語教育の充実については平成27年6月に、市内外の有識者による「高崎市英語教育抜本改善検討会議」を立ち上げ、さまざまな取組を行ってきました。この会議を設置した目的は、本市小中学校の英語教育に関する指導を見直し、英語の授業などの抜本的改善を図り、国際化に対応したこれからの高崎

市を担う児童生徒の育成を推進するということです。

ALT全校配置により小学校の外国語活動担当教員、中学校および高等学校の英語担当教員をメンバーとして、今年3月に1年生～6年生までの「高崎市小学校英語



小学校での授業風景



中学校での授業風景

科・外国語活動指導計画」を策定しました。英語教育の充実には教員とALTの連携が不可欠ですので、指導計画の英訳版もALTの協力をいただいて作成しました。今回着任したALTの皆さんからも、一つの目安をもって取り組んでいけると好評をいただいています。

計画の構成は、本市小学校英語科・外国語活動で目指す児童像、英語科や外国語活動の授業の流れ、1年生から6年生までの年間指導計画、各単元の指導計画、1時間ごとの授業例、評価の観点と評価規準、授業で使用するワークシートや教材、振り返りカードなどからなり、58の全小学校が同一歩調で取り組めるようになっていきます。教材は、文部科学省の外国語活動教材の『Hi, friends!』、『Hi, friends! Plus』やデジタル教材を始め、2で述べた城南小学校で培ってきた単元や教材、新たに作成した絵本を活用したオリジナル教材など多彩なものを用意しました。

これらの準備と並行して、文部科学省に教育課程特例校を申請していましたが、平成27年12月に指定をいただき、今年度から全小学校が特例校となり、1年生から4年生までは週1時間の外国語活動、5年生および6年生は週2時間の英語科を実施することとなりました。

小学校の早い段階からネイティブの英語に触れながら、英語に親しませることを通じ、将来の高崎市を担う高い英語力と国際感覚を持った児童生徒の育成に努めていきたいと考えています。